

## モバイル端末の利用の拡大とともに、スクリーン上で読む利用が増大 電子ジャーナル等の利用状況: 2014年SCREAL調査結果速報

学術図書館研究委員会(SCREAL; Standing Committee for Research on Academic Libraries)は、2014年11月から12月に、国公立大学図書館協力委員会、国立大学図書館協会等の協力の下、電子ジャーナルおよび学術論文の利用に関する大規模な調査を実施し、3,933件の有効回答（機関名確定分）を得た<sup>注</sup>。

### <結果の概要>

#### ・学術論文をPCまたはモバイル端末の画面で読む比率が増加している

自然科学系では、3割以上の回答者が「オンラインで利用可能な論文（以前にダウンロードしていた論文を含む）をPCまたはモバイル端末の画面で読んだ」と回答している。また、人文社会科学系でも18.9%の回答者が同様の回答を行っている。この結果を2007年、2011年の調査結果と比較すると、大きく伸びていることがわかる。ただし、未だに半数以上の回答者は、印刷物または電子ジャーナルを印刷して利用している（図1参照）。

#### ・モバイル端末の研究・教育での利用が急激に増えている

自然科学系では48.5%、人文社会科学系では52.7%の回答者が、モバイル端末を研究・教育に関連する“資料を読むため”に、月1回以上利用していると回答しており、2011年調査時のそれぞれ16.2%、19.9%と比べて急激な増加が見られた（図2参照）。

#### ・自然科学系では95%、人文社会科学系でも80%が電子ジャーナルを「月に1回以上」利用している

電子ジャーナルを「月1回以上利用」とした回答者は、自然科学系で95.1%。人文社会科学系で79.7%に達した。この結果を2001年以降の同種の質問への回答状況と比べると、電子ジャーナルの利用が着実に定着したことがわかる（図3参照）。

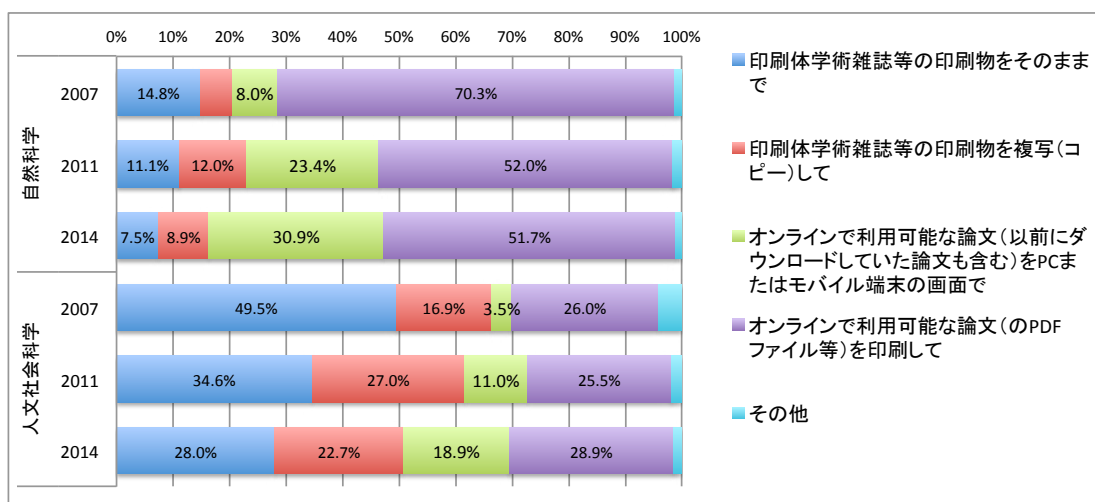


図1: 読んだ論文の形式

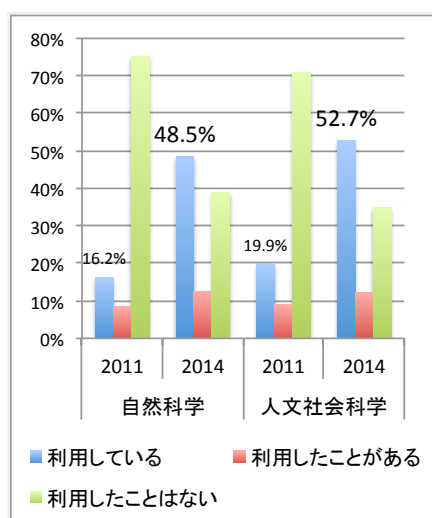


図2: モバイル端末の研究/教育での利用

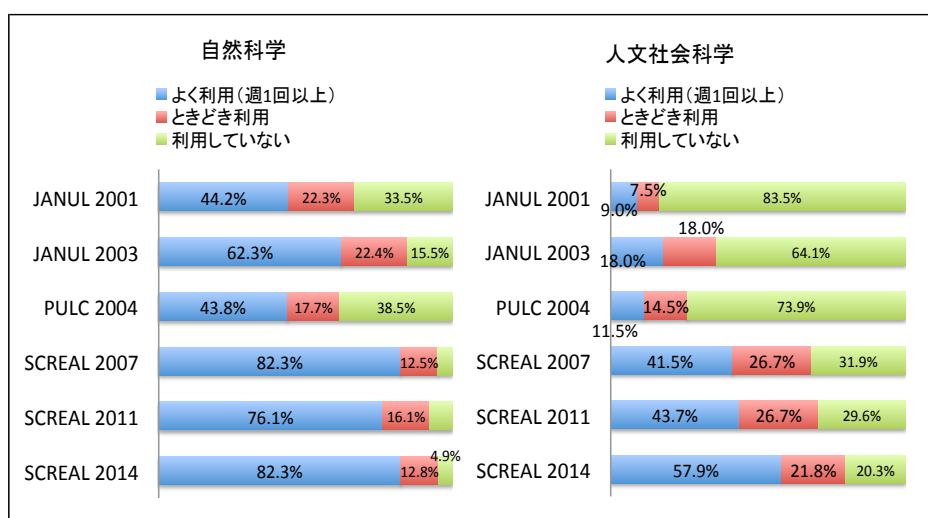


図3: 電子ジャーナルの利用度

注) 調査協力機関は以下の国内45機関であり、所属する教員、研究者、博士後期課程大学院生に対してWeb方式によるアンケートを行った。大阪大学(法学研究科、経済学研究科、工学研究科)、海洋研究開発機構、鹿児島大学(桜ヶ丘分館一医学系)、金沢大学、九州大学(教員: 数理学研究院、大学院生: 数理学府、総合理工学府)、京都大学、慶應義塾大学(信濃町キャンパス)、神戸大学、産業技術総合研究所、静岡大学、上越教育大学、千葉大学、筑波大学、天理医療大学、東京外国語大学、東京家政学院大学、東京家政大学、東京慈恵会医科大学、東京情報大学、東京女子大学、東京大学、東京理科大学、東北大学、名古屋工業大学、奈良先端大学院大学、日本原子力研究開発機構、日本獣医生命科学大学、日本大学(文理学部、経済学部、歯学部、生物資源科学部、理工学部、医学部)、浜松医科大学、一橋大学、広島大学、福島医科大学、物質材料研究機構、防災科学技術研究所、放射線医学総合研究所、北翔大学、北海道医療大学、北海道大学、室蘭工業大学、山口大学、横浜国立大学、理化学研究所、立教大学、和光大学、早稲田大学。